

# 明日からのレポート

地域と企業を明るく元気にして  
存在感のある商工会議所を目指します

袋井商工会議所は、2013年で創立20周年を迎えました。地域経済をとりまく環境は厳しい状況が続いていますが、向こう3年間の進むべき方向を「明日からのレポート」として明示し、会員・地域から信頼され必要とされる役に立つ商工会議所活動を展開していきます。

## 基本理念

袋井商工会議所は、会員・地域から高い評価を受け、信頼され必要とされる商工会議所であることを追求し、地域と企業を明るく元気にする存在感のある商工会議所を目指します。

## 行動指針

### 企業をよくする

会員企業の発展を第一に考え、役に立つ商工会議所を目指します。

### 地域をよくする

地域の課題解決に取り組み、社会に貢献する商工会議所を目指します。

### 組織をよくする

地域経済団体としてふさわしい組織・財政・運営基盤を確立し、存在感のある商工会議所を目指します。

## 中期行動計画の概要

2014年~2016年の3ヶ年を対象に、当所の行動計画として3つの行動指針と13の取り組みからなる「明日からのレポート」を策定しました。



# 具体的な取り組み目標

## 企業をよくする ワンストップ・ビジネス総合支援体制を構築して、最初に相談したい窓口へ！

取り組み	項目	目標
I 中小企業の経営課題に対する経営支援体制を強化	1	こんにちは商工会議所を継続的に実施 会員企業を職員が毎年1回以上訪問し、会員企業からの要望を聞き取り、商工会議所からの情報提供を行う。 会員企業訪問と連携して労働保険委託事業所の各種変更、労務相談等に対応する。また、新規事務委託事業所数(委託換えを含む)を増やす。3年間で30事業所
	2	専門性の高い経営支援の実施 経営指導員個々の更なるスキルアップを図り、様々なケースに対応すべくコーディネーターとしての能力向上を目指す。 専門性の高い経営支援を推進するために、他団体等との連携を図り、会員企業へのサポートを行う。3年間で12件
	3	創業、経営革新・経営改善に向けた相談機能強化 経営革新計画の承認件数 毎年4件以上、3年間で12件以上、日本政策金融公庫の新規開業資金あっせんを毎年8件以上、マル経融資制度による経営改善支援を毎年30件以上を目指す。
II ビジネス拡大のための交流支援	1	マッチング事業の積極的展開 県内外で開催予定の展示会・商談会等の情報を整理し、会員企業の参加を促す。また、ふくろい宣伝隊ブースの共同参加を年に数回企画する。
	2	産学官連携事業の推進 袋井市産学官情報交歓会、ビジネスコンテスト、三遠南信ビジネスマッチングフェア、各種商談会等の参加企業実績を3か年で150社にする。
III 国際化への積極的な支援	1	アジア産業交流会の会員サービスマッチング強化 (1)アジア産業交流委員会の参加企業を3か年で50社に伸ばす。 (2)当所の国際化事業の利用者を3か年で累計600社に伸ばす。
	2	アジア圏(中国・台湾・ベトナム・タイ)との産業交流の推進 (1)中国・台湾・ベトナム・タイとの相互訪問機会を創出する。 (2)県教育委員会が主導する日中青年代表交流事業へ会員企業からの参加者を3か年で20名に伸ばすと共に、参加者OB会を発足させる。 (3)ターゲット国の海外機関との協力協定を3か年で3ヶ所以上と結ぶ。 人づくり・まちづくり委員会内に5年制化研究会を設置し、今後の推進計画を策定する。
IV 人材育成・確保の支援	1	県立袋井商業高等学校の5年制化の推進 検定総受験者数10%以上拡充 700人を目指す。
	2	商工業の担い手づくりのための資格取得・能力向上に向けた支援
	3	若手経営者や後継者の育成を支援 (1)青年部・女性会の会員数増加をはかり、活力ある部会活動を支援する。 (2)研修会、講演会の開催にあたっては、会員ニーズ、費用対効果を考え、参加者の満足度の高い企画をする。
	4	花火でも有徳基金による青少年健全育成支援 環境行動計画の実施 我が社の1エコ宣言事業所を毎年10社以上増やす。
V 会員企業の環境問題への意識醸成と取り組みへの支援	5	

## 地域をよくする 人、企業、団体が集い、情報が集積する地域活性化の中核拠点へ！

取り組み	項目	目標
I 農を活かしたビジネスモデルの創出	1	農業をベースにしたビジネスモデル輩出支援 (1)ビジネスコンテスト、品評会、ビジネスマッチングへの参加を促し、入賞企業を3か年に10社以上輩出する。 (2)日本商工会議所関係会議にて、農業の6次産業化分野の事例発表となり得る会員企業を3か年に2社以上輩出する。
	2	袋井市の農を活かした街づくりへの協力 (1)袋井市と力を合わせて、ICTツールを活用できる農家・参画企業を育成する。 (2)ICT街づくり推進事業への会員企業からの参加企業を20社以上輩出する。
	3	道の駅研究会の発足 (1)袋井市内に「道の駅」を設置する研究会を発足させる。 (2)道の駅構想をまとめ、袋井市や県・国等関連機関に提言する。
II 賑わいの創出	1	内陸フロンティア構想への提言 (1)袋井市内の内陸フロンティア構想に関し組織化された「内陸フロンティア推進コンソーシアム」に参加し、民間側の意見集約を行い、具体的なビジネスプランを作成する。 (2)県構想の袋井市エリアにおける「食と農ビジネスの振興」によるセントラルキッチン形成と「沿岸部における企業移転・農地再生モデルの構築」に基づく具体策を模索するとともに、広域的な視点と地域の特性を捉え、「物流拠点」構想等も加味して、袋井商工会議所版ビジネスプランを練り上げる。
	2	個店の魅力アップや商店街共同販促への事業展開を推進する (1)ふじのくに「魅力ある個店」登録の推進 年間5店以上登録、3か年で15店以上登録 (2)個店同士が協力し継続した販促事業の展開(「まちゼミ」など)

取り組み	項目	目標
II 賑わいの創出	3	袋井駅舎改築に伴い駅南駅北の賑わいを創出するための研究をする (1)駅南駅北を一体としたにぎわい創出を研究・提言する。 (2)中心市街地活性化基本計画の策定を市に要望する。
III 観光資源の活用	1	袋井が誇る観光資源としてのふくろい遠州の花火を継続実施し、全国、海外に情報発信をする (1)安全対策マニュアルの見直し・整備と実施の徹底 (2)協賛企業の確保と有料観覧チケットの完売 (3)想定外費用引当の花火基金30,000千円の確保 (4)運営従事者数10%向上 1,350人 (5)花火でも有徳基金への継続的拠出(毎年 1,000千円) (1)2019年 ラグビーワールドカップの競技会場としての誘致 (2)2020年 東京オリンピック・パラリンピックの支援会場としての誘致
	2	小笠山総合運動公園エコパの利活用を図り、エコパの花の郷の保全、全日本学生フォーミュラなどの開催支援に取り組む 会議所活動および会員企業の企業活動において、出来るだけ多く、富士山静岡空港を利用する。
	3	富士山静岡空港の利活用促進等に対する協力
	4	イメージキャラクター『どまんニヤカ』の活用 年間30回以上行う。
IV 新たな地域ブランドの創出	1	地域資源を活用した土産品、ご当地グルメの開発などに取り組む (1)県内外で開催予定の展示会・商談会等の情報を整理し、会員企業の参加を促す。また、ふくろい宣伝隊ブースの共同参加を年に数回企画する。 (2)ビジネスコンテスト、品評会、ビジネスマッチングへの参加を促し、入賞企業を3か年に10社以上輩出する。
	2	袋井産品のブランド化 (3)日本商工会議所関係会議にて、農業の6次産業化分野の事例発表となり得る会員企業を3か年に2社以上輩出する。
V 行政への積極的な提言・要望活動	1	具体的な解決策を盛り込んだ「一歩先んじた政策提言」 静岡県、袋井市への新規要望を毎年1件以上行い、結果については会議所だより、ホームページにて行う。
	2	提言・要望実現のため、進捗状況、結果を取りまとめ、内容を公開する

## 組織をよくする 存在感があり、さらに頼りになる商工会議所へ！

取り組み	項目	目標
I 財政基盤の強化	1	総組織率65%を目指す 総組織率65%、県内第1位の総組織率を目指す。
	2	自主財源の確保 どまんニヤカ共済の加入事業所について、700事業所、加入者2,000人を目指す。
II 事務局機能の強化	1	一層のITの活用 (1)会議、巡回でのタブレット端末の活用 (2)ホームページ内での会員向け案内の充実
	2	マスコミ等を活用した効果的な広報活動 マスコミ等と連携し、「会頭定例会見」を実施し、新たな事業や重要な事業を効果的に発信する。(2ヶ月に1度)
	3	職員の資質向上 職員研修計画を見直し、資格取得支援の整備をすすめ、積極的に自己研鑽に励める環境を作る。3年間で1人1資格取得
	4	コンプライアンスの徹底、危機管理対応の整備 (1)事故再発防止のために制定した職員行動規範(2007.4制定)を掲示し、毎月1日朝礼時に唱和し徹底していく。 (2)袋井会議所災害時対応マニュアル(2013.3制定)を運用するために、各自の役割を確認し、必要な物資を準備、見直しをしていく。
III 連携活動の強化	1	釜石商工会議所との友好会議所提携協定に基づき、産業交流・地域活動、スポーツ・文化交流を推進する。引き続き、震災復興を支援する。2016年若手団体の成功を応援する。 (1)連携により効率的な事業運営ができるよう、袋井市幹部との情報交換会の定例開催をはじめ、近隣商工会議所・商工会、その他経済団体とも情報交換を密にする。 (2)(公社)日本エアロビック連盟、袋井市、(一社)袋井市スポーツ協会と連携して、JOCジュニアオリンピック全国エアロビック選手権大会を支援するとともに、スローエアロビックを全国に向けて普及・発信する。
	2	ベトナム商工会議所との協力協定(MOU)を活かし、経済交流を促進する
	3	日本商工会議所のネットワークを活用し、全国各地域との交流を図り、各地へ袋井商工会議所の情報を発信する
	4	地域の共通課題の解決に向け、行政や近隣商工会議所・商工会、経済団体、大学、農業団体、住民等の多様な主体との連携を図る

どまんニヤカ  
DOMAN-NIYA-KA



イメージキャラクター